

林業と環境保全の両立をめざして

北海道立林業試験場

副場長 薄井 五郎



農業・林業・水産業など生物資源に依存する産業においては、持続的発展を遂げなければ人類の食・住の将来を保証することができません。

そして、今まさに持続的発展を支える技術の開発と施策の展開が世界的な課題になっております。

発展途上国の人口爆発や生活レベルの向上は、食料確保のための林地開墾や、木材・燃料の供給のための森林伐採量の増加を加速しております。この傾向は、森林の更新や成長量に不安が残る寒冷地方や熱帯地方にも及んでおり、世界的に環境変化や資源減少が進むことは、避けられない情勢にあります。

地球的環境問題の中心的課題として、森林に焦点が当てられています。これは森林が、人間が生存していくために早急に解決しなければならない問題と深くかかわっているからです。

地球的な森林資源の再生は、世界各地における取組みによってはじめて実現されるものです。森林再生が容易な温帯地方、とくに日本においては、林業の活性を高める必要があり、木材生産の向上と森林による環境保全機能が両立するよう努力しなければなりません。

このような情勢にあって、北海道立林業試験場は、本道地域における森林資源の充実を基本としつつ環境保全機能を高度に発揮する森林施業技術を確保する必要に迫られております。

「光珠内季報」100号の節目に当たり、現場が取り組んでいる研究の現状と展望を特集します。